



International Alliance for Interoperability  
Japan Chapter

# NEWS LETTER

Vol.1 July, 1998

## 巻頭言

私が IAI 日本支部の会長をお引き受けしてから、早いもので 2 年あまりが経過しました。この短い間に、日本支部は 117 社の会員の参加を得、さらに 8 つの技術分科会を抱える大変活発な組織へと成長いたしました。また、海外に目を向ければ、9 つの国や地域で支部が設立されて国際的な協調体制が確立し、さらにここからシステム実装が可能な IFC バージョン 1.5 がリリースされるなど、国際標準活動としてはまことに異例のスピーディな進展をみせています。日本支部は、会員各位のご活躍により、国際評議会の運営、IFC の仕様決定、その実装技術の開発などにおいて多大の国際貢献が認められるに至っております。

ご存知のとおり、近年、企業活動の重要なキーワードになってまいりましたのが、「グローバル・スタンダードへの対応」であります。PC とインターネットの爆発的普及もあって、社会活動の基本原則が「一地域中心」から「世界的・地球的視野での連携」へと代わってきたのは、まことに自然な流れと言えましょう。日本の建設界においても例外ではなく、国際的な協調、あるいは国際的な競争を行うためには、共通の情報基盤を持つことが必須であり、世界規模で活動が進められている IAI の成果に、関係者の大きな期待が寄せられております。会員の皆様におかれましては、尚一層のご尽力を期待して止みません。

鹿島建設株式会社

専務取締役 庄子 幹雄



### プロフィール：

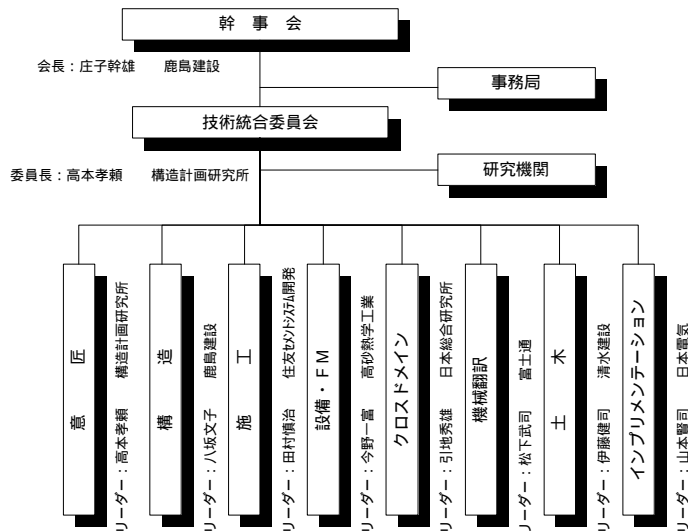
96 年より IAI 日本支部初代会長を務める。

経団連廃棄物部会長、土工協 CALS 検討委員会委員長など業界、財界の要職に就くかわら、日本計算工学会会長として学会で、また米国 MIT、ユタ大学の客員教授として国際的な教育/研究活動に従事。



## Organization

### 日本支部の組織と役割



日本支部における組織

### 幹事会

幹事会は IAI 日本支部の運営に関わる事項についての決定機関であり、日本支部活動が円滑に進むようにメンバー企業、他機関との調整を行うとともに、IAI 日本支部の財産運用を行う。また日本支部の代表として、IAI の他国際支部との調整を行う。

現在参加している幹事企業は次の通りである。(五十音順)

株式会社 大林組、オートデスク株式会社、鹿島建設株式会社、株式会社 構造計画研究所、新菱冷熱工業株式会社、住友セメントシステム開発株式会社、

高砂熱学工業株式会社、中電コンピューターサービス株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社、株式会社 日建設計、日本電気株式会社、株式会社 日本総合研究所、株式会社 フジタ、富士通株式会社 (計 14 社)

### 技術統合委員会

技術統合委員会は IAI 日本支部の活動における技術面での最高機関であり、IFC の仕様に関して技術的な検証を行うとともに、分科会の上位機関として他の国際支部との調整を行いながら IFC の中に日本仕様を反映させることを主な目的とする。また幹事会とともに IFC の普及活動を行う。

### 分科会

各分科会は IFC 仕様を把握し、IFC を理解するための資料作成を行っている。また、ユーザーの意見を取り入れながら IFC における業務プロセスを完成させ、日本仕様を作成するとともに他支部作成の仕様に対する評価を行う。平成 9 年度には新たに土木分科会、インプリメンテーション分科会を発足させた。



意匠分科会

(株)構造計画研究所 高本孝頼

意匠分科会では、IFC 全般に渡る情報をいち早く、しかも利用者側と開発側が一体となった思考で、今後への期待を持ちながら、様々な角度から検討・調査していきます。



構造分科会

鹿島建設(株)八坂 文子

鉄筋コンクリート構造のモデル提案をまとめていきます。本業でもユーザーの立場から建築関係の情報化に従事しておりますが、IAI では会社での仕事とは違う環境と方法で仕事が出来て、とても刺激的です。



施工分科会

住友セメントシステム開発(株)  
田村 慎治

IFC R3.0 にて、当分科会担当である仮設の仕様を形あるものにし、日本における IFC の普及の一翼をになえればと願っています。



設備 / FM 分科会

高砂熱学工業(株)今野 一富

IFC は、建設業が要請されている業界全体の生産性向上のためのキーテクノロジーのひとつとなる可能性を持った技術です。メンバーと協力して、「使える」標準を目指します。多くの方の参画をお願いします。



クロスドメイン

(株)日本総合研究所 引地 秀雄

最近、インプリ活動の影響で私自身が十分に分科会活動できていないと反省してます。外部ライブラリの推進は、IFC を活かした仕様として、広く普及していく上で不可欠なので今後はデモシステムの作成などを含めて積極的に活動していきたい。



機械翻訳分科会

富士通(株)松下 武司

IAI で作成される仕様ドキュメントの翻訳を行っています。翻訳作業開始時には、IAI 特有の言葉の日本語化等で苦心していましたが、用語辞書の完成でかなり作業が楽になった、今日このごろです。



土木分科会

清水建設(株)伊藤 健司

土木分野に関する IAI の分科会が、ようやく発足いたしました。当面はドイツ支部から提案されている仕様(道路設計など)の評価や日本に必要な仕様の追加提案などの作業が主となります。土木分野の活動は今後盛んになっていくと思われまますので、多くの皆さんの参加をお願いいたします。





#### インプリメンテーション分科会

日本電気(株)山本 賢司

インプリメンテーション分科会は IFC を実際に検証、実証する事を目的とした分科会です。現在、CAD ベンダーを中心とした 21 社が参加し、定期的に分科会を開催しています。具体的活動としては 4 月から 10 社、1 大学がメインとな



り、各社建築系ソフト間での IFC R1.5 のデータ交換実験にチャレンジしています。この様に 10 社以上の建築 CAD 競業ベンダーの開発者が一同に会して議論、検討、実証する機会を持つ事は画期的なことであり、IFC の実証のみならず、今後の建築 CAD 動向を検討する上でも非常に良い機会と考えています。

尚、今回の内容は 9 月の A/E/C SYSTEMS Japan '98 で紹介する予定です。A/E/C SYSTEMS Japan '98 にお越しの際は是非、IAI ブースにお立ち寄りください。

---

## A/E/C SYSTEMS Japan'98 に向けて

日本電気株式会社 山本 賢司

1 ~ 2 回 / 月のペースで 21 社 (大学 1 校含) 30 名程度の検討会を開催しております。本分科会では IAI で検討され、リリースされた IFC の仕様の検証と実際にその仕様を各社のソフトに組み込み実証する事を目的に活動しています。現在、R1.5 での実証実験を 13 社の建築ソフト上で進めており、この成果は 9 月に開催されます A/E/C SYSTEMS Japan '98 でお披露目する予定です。

### インプリ分科会の活動状況

インプリメンテーション分科会発足当初の 3 ヶ月間は IFC の勉強を中心に活動していました。4 月以降は実際に IFC R1.5 での実証実験活動を中心に進めています。

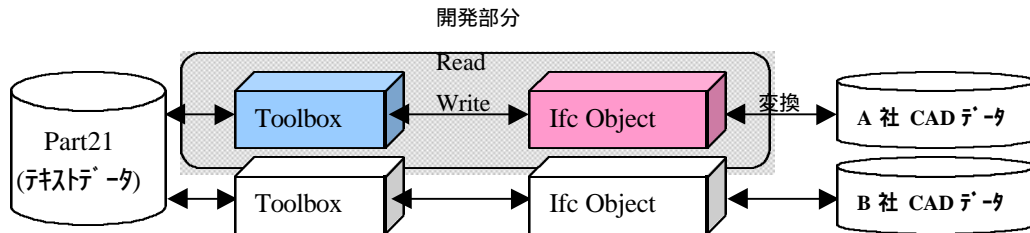
具体的活動として、まず、各社の建築ソフトの各部材情報を一部公開してもらい、各社ソフトベンダー全体での意識合わせできるようにしました。これは、各ソフトのデータの癖 (基準点、属性内容等) を認識する事を目的としています。次に A/E/C SYSTEMS Japan '98 向けのデモの対象範囲と対象部材、条件設定、その条件に合ったデモデータ検討、作成を行って来ました。また、日本支部内でのローカルルールである AEC Japan Agreement の作成、また、サンプルデータでのテストも各社で進められています。今後のスケジュールとしては 6 月にシナリオ検討、デモデータ作成 7 月にはデモデータの IFC データ作成、シナリオベースにした各社開発 8 月には各社間で簡単なデータ交換はできる程度に開発する予定です。

これらデモ内容の成果は A/E/C SYSTEMS Japan '98 で発表するだけでなく、今回の作業で明確になった IFC R1.5 の問題点等も含め国際会議で正式に報告する予定です。



今回のシステム開発の概要（構造、環境）

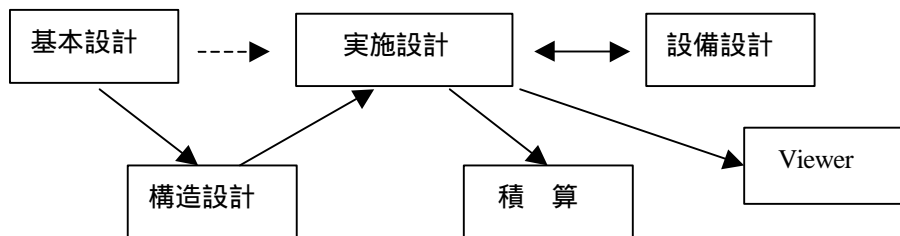
今回の実証実験では Concad 社製（ドイツ）の Toolbox を利用しています。Toolbox は IFC データを実行形式である Part21 形式（データ交換形式）に変換できるツールです。具体的イメージは下図を参照願います。このようなツールは Concad 社以外にも欧州を中心に数社が開発、販売しています。今回の実験ではデータ交換での実証実験を実施する予定ですが、その他のデータ交換、データ共有の方法としては DB でのデータ交換（SDAI）、分散 DB でのデータ共有（CORBA、DCOM）の方法があります。これらは各運用によって、扱うツール、機能が変わります。



具体的運用イメージ

**AEC SYSTEMS Japan' 98** でのデモ内容

今回の9月のA/E/C SYSTEMS Japan'98では2ステージのデモを実施し、1ステージ5ソフト程度でデータ交換のデモを実施しようと考えています。内容としては、建築CADだけではなく積算、構造計算といったNon-CADとのIFCデータでの情報交換を検討しており、各分科会の実業務に携わるメンバーからも意見を聞き、実務にできるだけ合ったデモストーリーとする予定です。以下が現状の検討段階のデモストーリーです。



**国際会議報告**

株式会社 大林組 太田 洋行

**9つの支部と614会員**

次ページの図に示す様に、現在IAIは以下の9つの支部(Chapter)から構成されています。

- ・ オーストラリア支部(Australasia) - オーストラリア、ニュージーランド
- ・ フランス語圏支部(French Speaking) - フランス、ベルギー、スイス(一部)
- ・ ドイツ語圏支部(German Speaking) - ドイツ、オーストリア、スイス(一部)
- ・ 日本支部(Japan) - 日本
- ・ 韓国支部(Korea) - 韓国
- ・ 北欧支部(Nordic) - デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン



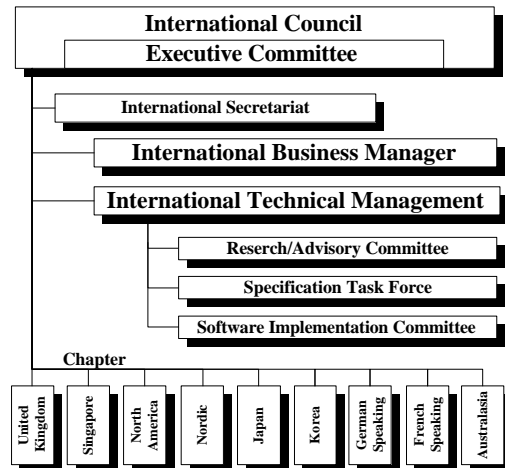


- ・ 北米支部(North America) - アメリカ、カナダ
- ・ シンガポール支部(Singapore) - シンガポール
- ・ イギリス支部(United Kingdom) - イギリス

総会員数は 614 社(98 年 5 月現在)に上り、その業種もソフトウェアベンダーから設計事務所、建設会社、エンジニアリング会社、建築製品製造業者、家具・什器メーカー、公的研究機関と多岐にわたります。

#### 国際技術統合委員会と国際評議会

このような多様なバックグラウンドを持つ参加委員の意見や要望を調整するため、IAI では次のような組織を設け、その任に当たっています。



- ・ 国際技術統合委員会 ( International Technical Management /ITM ): およそ 3 ヶ月ごと年 4 回開催され、技術的な観点からプロジェクトの進捗管理や各支部で担当範囲の調整を行ないます。参加者は国際技術統合委員長(International Technical Director /ITD)、各支部技術統合委員長、スペシャル・タスク・フォース(Special Task Force /STF)スタッフ、ソフトウェア・インプリメンテーション委員会(Software Implementation Committee /SIC)委員長、技術諮問委員会(Research Advisory Committee /RAC)委員長です。
- ・ 国際評議会 ( International Council Meeting /ICM ): IAI の最高意志決定機関であり、年 2 回春秋の ITM に引き続いて開催され、運営戦略の基本方針を決定します。各支部から支部長を含む支部代表者 2 名、および ITD、国際ビジネスマネージャー(International Business Manager /IBM)、SIC 委員長、RAC 委員長から構成されます。

#### 運営委員会の設置 - 第 5 回コペンハーゲン国際会議

しかしながら、IFC の開発が進行するにつれ、討議内容も多岐にわたるようになり、その中身も複雑化してきたため、ITM と ICM だけでは、これらの課題に対応することが難しくなってきました。このため、4 月 30 日および 5 月 1 日にコペンハーゲンにて開催された ICM において、運営委員会(Executive Committee /ExCom)が設置されることが決定しました。ExCom は ICM 議長と ICM のメンバー 3 名および ITD、IBM の合計 6 名から構成され、今後、技術および資金の両面から IAI の舵取りをすることになります。ExCom の緊急課題として、乖離が大きい 98 年度下期の開発費用とその裏付けとなる国際基金の摺り合わせが現在、討議されています。

日本支部にもアジア太平洋地区 4 支部を代表して ExCom メンバーへの就任を要請されていますが、現在までのところ態度を保留しています。

IFC/R1.5 対応のインプリメンテーションが各支部で実施され、これに準拠する製品の販売が視野に入ってきています。このような状況において、「研究のための研究団体」からステップアップするために組織を見直す必要があり、パリで開催される次回 ICM も、骨の折れる会議になることが予想されます。



連 載

## 世界の動き

株式会社 フジタ 山下 純一

世界の動向とは恐れ入ったタイトルですが、日本も含めてIAIと関わりがありそうな話題を取り上げてみたいと思います。

今回は紙面もあまり無いことから、予告編のようになってしまつて申し訳ありませんが今後取り上げる話題を、順不同で思いつくまま列挙してみます。

### 1 IAI と STEP との協調、協力関係

みなさんご承知の通り、IAI は STEP のリエゾンになっていますが、具体的にはどのように協調、協力して行くのか不明でした。この6月に、まだ整理はされていませんが、やっと具体的なシナリオが作られました。

### 2 CIMsteel と IFC

NORDIC Chapter でマッピングのプロジェクトが立ち上がるようとしています。

### 3 CDS と DXF-

ドイツの自動車業界の建設プロジェクトに使用するための2次元 CAD データ交換標準 CDS(STEP 準拠)に直接対応する CAD ベンダーと DXF- とトランスレータで対応しようとする CAD ベンダーの話。

### 4 ヨーロッパの各種プロジェクト

FUNSTEP,VERA...など

今後とも、状況の変化をタイムリーにとらえた内容で、皆様にご説明したいと思います。



---

## IFC 最前線 「IFC のリリース状況とプロジェクトID」

株式会社 構造計画研究所 高本 孝頼

IFC のリリースは、これまで 1.0 と 1.5 が既に提供されており、現在、2.0 と 3.0 が並行して作成段階である。さらに今年からは 4.0 の要求仕様をまとめていく計画もある。

もともとのリリース 1.0 と 1.5 は、STF (Specification Task Force) と呼ばれる数人のスタッフによって、建築意匠、空調設備、FM、施工管理の4つのドメインにおいて、先行的にまとめられた仕様書がベースとなっている(表1)。しかし、リリース 2.0 と 3.0 からは、国際技術統合会議(以下 ITM)で議論されたプロジェクトをベースにまとめられるようになってきている(表2、表3)。96年のシカゴでの ITM では、全部で 20 以上のプロジェクトが議論され、各国による重要度や難易度などを加えて、リリース 2.0 にするか、3.0 にするか決定がされた。

現在、リリース 2.0 と 3.0 に関しては、プロジェクト ID を使って、ドメインのより詳細な内容の区分けを行なっている。この中で日本の担当は、リリース 3.0 において、構造分野の ST-2 と、施工分野の CM-1 を担当している。

今後、リリース 4.0 において、不足しているプロジェクトも提案される予定である。



表1．リリース1.0と1.5の仕様書内容

ドメイン	仕様書内容
意匠設計	建物配置設計、壁配置、ドア配置、窓配置、開口一覧
空調設備	建物熱負荷計算、製造設備選択と空調設備一覧
施工管理	積算見積り、積算対象品目、積算項目と資源の設定、施工スケジュール
FM	FMスケジュール

表2．リリース2.0のプロジェクトID

プロジェクトID	内容	担当国
意匠: AR-1	意匠モデルの拡張	北米
AR-2	避難経路のための空間設計	イギリス
設備: BS-1	空調システム設計	北米
BS-3	配線計画	ドイツ
BS-4	熱応力計算	ドイツ
法規: CS-1	法規対応評価	北米
CS-2	法規拡張	シンガポール
積算: ES-1	原価積算	北米
FM: FM-3	財産保守	北欧
FM-4	占有計画	北米
シミュレーション	フォト・リアリスティック・ビジュアル化	北米
共通: XM-2	プロジェクト仕様書管理	ドイツ
XM-3	総合モデル機能 / 建築拡張	STF

表3．リリース3.0のプロジェクトID

プロジェクトID	内容	担当国
意匠: AR-3	外観設計他	北米
AR-4	避難経路設計	イギリス
設備: BS-2	電気・照明設計	イギリス
BS-5	空調システム設計拡張	北米
BS-6	性能測定規準	北米
BS-7	建物性能監視	北欧
土木: CI-1	調査、道路および鉄道	ドイツ
施主: CB-1	供給情報を含むプロセスモデル	イギリス
施工: CM-2	仮設計画	日本
法規: CS-3	法規照合性能	北米
積算: ES-2	コスト計画	イギリス
ES-3	コスト構成区分	北欧
ES-4	積算・スケジュール統合化	北米
ES-5	スケジュール	北米
FM: FM-1	機械保守	イギリス
FM-2	建物保守	北欧
FM-5	その他FM	北米
FM-6	システムと特性管理	北米
FM-7	アクティブFM	ドイツ
Prj管理: PM-1	スケジューリング	北米
構造: ST-1	鉄骨構造	イギリス
ST-2	RC構造/基礎構造	日本
ST-4	荷重定義	ドイツ
共通: XM-1	外部参照ライブラリ	イギリス
XM-3	総合モデル機能 / 建築拡張	STF
XM-4	法的問題の統合	ドイツ
XM-5	原料の性能・属性	オーストラリア
特別 Prj: SP-1	AEC専門家による視点	北欧

次回は、各仕様書について説明します。





## 第1回 テクニカル ワン ポイント

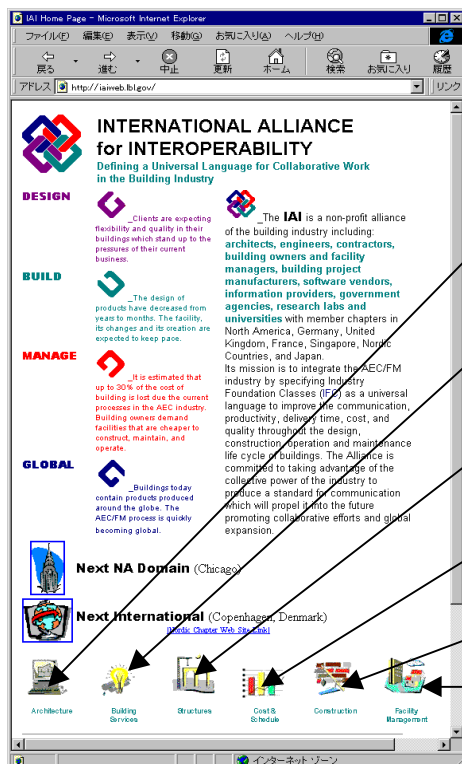
株式会社 トップス・ソフトウェア 太田 孝和

今回は、連載の第1回目につき、ホームページの紹介からスタートします。

まず最初は、IAI Home Page

<http://iaiweb.lbl.gov/>

アクセスを一度はされた方も多いと思いますが、IAIのHomepageです。



建築 (Architecture) 部門の R1.0, R2.0, R3.0 に関する経過、予定の説明が記述されています。

設備 (Building Service) に関する概要が記述されています。

構造 (Structure) に関する説明が記述される予定で、現在準備中です。

積算&工程 (Cost & Schedule) に関する説明が記述される、現在準備中です。

施工 (Construction) に関する概要が記述されています。

FM (Facility Management) に関する概要が記述されています。

画面には出ていませんが、下の部分の Chapter Directory をクリックすると、各国の支部のホームページへリンクされます。現在は、北米支部、UK 支部、北欧支部、シンガポール支部、仏支部のホームページへのリンクがされています。

リンクはされてはいませんが、独支部、オーストラリア支部、韓国支部のホームページもありますので、以下に URL を記載しておきます。

- ・オーストラリア支部 URL <http://www.interoperability.org.au/>
- ・韓国支部 URL [http://italab.kyunghee.ac.kr/iai\\_korea/](http://italab.kyunghee.ac.kr/iai_korea/)

各国の活動状況を、時々覗いてみることも御薦めします。

日本支部のホームページは、この7月開設を目標に準備中ですので、URL をお知らせしておきます。

<http://interoperability.gr.jp>

次回も引き続き関連 URL の話しを掲載する予定です。



特別掲載 ~ IFC 実践の場として ~

## Finnish Vera Programme

Nordic Chapter: ARTO KIVINIEMI

ARTO KIVINIEMI

アルト・キビニエミ氏は、ヘルシンキ大学にて建築学修士号を取得し、その後、建築家として数々の地方自治体建物、文化センターや大学の設計に関わった。またその間、建築家として多くの賞を受賞している。

Tampere 技術大学にて CAD の教鞭を取った後、現在は、上級研究員として VTT (フィンランド技術研究所) に籍を置く。

1996 年より IAI ノルディック支部会長を務め、翌年 1997 年より、Vera プログラムのプログラムマネージャとして活躍をしている。また STEP 委員会のメンバーを努めるなど、国内外の建築業界における情報技術団体の要職をしめる。今年度より、IAI 国際評議会会長、IAI 運営委員会会長に選任される。

Email: arto.kiviniemi@vtt.fi

URL: <http://www.vtt.fi/cic/kiviniemi>



### Finnish Vera Programme

As the Chairman of IAI International Council, Executive Committee and IAI Nordic Chapter I want to send my warm and sincere congratulations to the new Japan IAI Newsletter, especially because the warm atmosphere in the IAI Tokyo meeting 1997 has a very special place among my memories. I wish that the new media will bring even more enthusiastic members to IAI Japan Chapter and help us all in our international work. It is a great pleasure and honour for me to have the possibility to tell here about the Finnish national IT programme "Vera - Information Networking in the Construction Process".

IAI 国際評議会会長、運営委員会会長及び、ノルディック支部会長としてこの度の IAI 日本支部ニューズレターの創刊に、心からのお祝いを申し上げます。特に、昨年度の東京会議における心温まる雰囲気のおかげ、日本支部はことその他、私の記憶の中でも思い出深いものがあります。この新しいメディアによって、日本支部の活動がより活発になり、それが国際的な活動にもますます繋がっていく事を願っています。

今回、ニューズレターの紙面をお借りし、フィンラ

ンド政府における情報化プログラム、「Vera (ベラ) - 建築産業における情報ネットワーク化の推進」ご紹介のよい機会をいただきました事、まことに光栄です。

The Finnish technology programmes create new technological know-how through the co-operation of companies, research institutes and universities on a specific field of technology or industry. Vera programme started in 1997 and it is the biggest R&D programme for the Finnish AEC/FM industry. The time span for the programme is six years, 1997 - 2002, and the total budget is 170 million FIM, 4 billion ¥. Tekes, Technology Development Centre of Finland, is funding 40% of the budget and the rest is coming from the industry partners in different projects.

フィンランドにおける技術革新は、これまでも、企業、研究機関、大学の協力により特定の技術分野や対象となる産業界における新しい技術ノウハウを作り出しています。

Vera プログラムは昨年度 1997 年に開始され、フィンランドの AEC/FM 分野では最も規模の大きい研究開発プログラムです。期間は 1997 年から 2002 年



の6ヶ年に渡り、予算総額は1億7千マルッカ(約44億円)内訳はフィンランド技術開発センター(略称 Tekes)が40%を負担し、残りは産業界からなっています。

The main focus in Vera programme is to promote the implementation and use of IT as an enabling technology to re-engineer the construction process. 20% of the budget are used for research institutes and universities, 80% are for the industrial projects. The five main areas in the projects are:

- ◆ Re-engineering of the construction process
- ◆ Implementation of IT as a part of the process
- ◆ Information sharing
- ◆ Use of information networks
- ◆ Life cycle information management

Vera プログラムの主な目的は、建築プロセスを再構築するために、現在可能な情報技術を利用する事、そしてその技術を実際に実装し使う事を推進することです。予算の20%は研究機関と大学に、残る80%が産業界のプロジェクトに配分されていることからもおわかりかと思えます。プロジェクトのカバーする5つの主な分野は以下のとおりです。

- ・ 建築プロセス全体の見直し
- ・ プロセスの一部としての情報化の組み込み
- ・ 情報の共有化
- ・ 情報ネットワークの利用
- ・ ライフサイクル情報の管理

The programme is a framework for projects, which are mainly coming from the AEC/FM industry as a part of their business strategy. The goal of a project should always include also commercial benefits for the partners. We see that the key people for the development of AEC/FM industry are the building owners and facility managers, because they are the ones who can set new requirements for the other partners and in the long run they will get the most benefits.

AEC/FM 業界の、主に企業戦略の一部としてそれぞれのプロジェクトは進められているため、Vera プログラム自体は、単なる枠組みを提供しているだけで

す。ですから、プロジェクトのゴールは、彼ら産業界のパートナーに対し、必ず何らかの具体的な利益をもたらすものでなければなりません。AEC/FM 業界の発展を担う鍵となる人々は、施主、資産管理者だと私達は考えています。彼らこそが新規の要求仕様または変更仕様を出す側であり、長い目で見た場合の受益者だからです。

The key technologies for our goals are product data models and object orientated software. The programme is supporting software development only if data sharing and networking are in the scope. All projects connected to the data sharing must also support IFC (Industry Foundation Classes).

我々の最終目的を司る基幹技術は、製品データモデルとオブジェクト指向ソフトウェアの2つから成ります。

ですから、Vera プログラムは、データ共有とデータネットワーク化を対象としたソフトウェア開発にのみ支援を行っています。またデータの共有化に結びつく全プロジェクトは、必ずIFC対応をすることが決められています。

Finland has a relatively long history in product data modelling. We started the early Ratas projects already in mid 80's. They produced many good ideas and know-how in research, but very few software products. The reason for this was mainly the small size of the market in Finland and the lack of OO programming tools at that time. When IAI started as an international project it was natural for us to join the organisation because our AEC/FM industry knew what product data modelling could bring to the processes if the software companies could produce real tools. At the moment already 7 companies are in Finland implementing IFC in their software and the total number of projects in Vera programme is 46.

フィンランドは、製品データのモデリング化について、比較的長い歴史を誇っています。1980年代半ばには、既に原形ともなるプロジェクトが開始されていました。これらプロジェクトは、多くのよい



アイデアと研究におけるノウハウを生み出しましたが、当時のプログラミング環境がまだまだ十分でなかった事もあり、実際に実装したソフトウェアはほんのわずかでした。

このような歴史からも、IAI が国際的プロジェクトとして開始した時、この活動に参加する事は私たちにとっては自然な流れでありました。何故ならフィンランドの AEC/FM 産業は、ソフトウェア会社が設計の流れにあったツールを提供できたならば、その建物データモデリングが設計プロセスをどのように変革することができるかを既に知っていました。フィンランドでは、現在、既に 7 社が IFC 対応のソ

フトウェアの開発を行っており、Vera プログラム全体におけるプロジェクトは、悠に 4 6 を数えます。詳細は、以下のサイトでご覧になる事ができます。

**Web-addresses:**

**VERA**

<http://www.tekes.fi/english/programm/prod/veraIAI>

**Nordic Chapter**

<http://www.vtt.fi/cic/niai>

**VTT**

<http://www.vtt.fi>

**Tekes**

<http://www.tekes.fi>

---

---

## IAI 日本支部ホームページ開設！！

<http://www.interoperability.gr.jp>

1998 年 6 月 25 日 IAI 日本支部ホームページが開設になりました。

IAI 日本支部ホームページには、日本支部参加企業一覧、年間スケジュール、IFC ドキュメントなど掲載しております。

お問い合わせ、ご入会のお申し込みなど、詳しくは IAI 事務局まで

**E-mail : [office@ml.interoperability.gr.jp](mailto:office@ml.interoperability.gr.jp)**

**TEL : 03-5676-8471**

---

---

News Letter の創刊にあたって

中電コンピューターサービス株式会社 天羽 庸子

E-mail: [amaha@ho.chuden-cs.co.jp](mailto:amaha@ho.chuden-cs.co.jp)

この度の I A I 日本支部ニューズレター創刊にあたり、多大なご協力をいただいた皆様にまず感謝いたします。

このニューズレターを通し、団体としての I A I の動きとその推進するテクノロジー、I F C の全体像をわかりやすくお伝えできればと願っています。また、会員の皆様のコミュニケーションの場として、そして同時に非会員の皆様にもご興味を抱いていただけるような内容を心がけてまいります。

何かのご縁で編集長役をいただきましたが、会員の皆様方のご協力を得て、よりよいニューズレターに育てていきたいと思っております。ご意見、ご要望等は、私までご遠慮なくお知らせください。それでは、今後ともご支援くださいますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。